



『ガラスのうさぎ』はどんなうさぎ？

山口子ども文庫の棚を眺めていて、高木敏子さんの『ガラスのうさぎ』を見つけました。私が小学生の時、担任の先生が授業の時間が余ると、この本を少しずつ読みきかせてくれました。

タイトルを聞き、ガラスでできた可愛いうさぎが、パステルカラーな世界をヒョンヒョン跳びはねるお話を想像し、ワクワクしたのを覚えています。



『ガラスのうさぎ』
高木敏子作 武部本太郎画
(金の星社)

いざ読みきかせが始まってみると、主人公の女の子は戦争中の暗い時代に生き、とてもパステルカラーどころではありません。お話が進み、やっとお目当てのガラスのうさぎが出てきたと思ったら、それは空襲の熱で溶けた、歪んだうさぎだったのか？ かなりの衝撃でした。

あとがきを読んで、これは本当にあったお話だと知り、借りて読むことにしました。読み終わったら子ども文庫の棚に戻しておくので、もし良かったら読んでみてくださいね。

夏休み ... 涼い部屋で本の世界を楽しもう



『なつやすみ』
麻生知子(福音館書店)
こうたくんの家にいとこの家族が遊びにきました。本に描かれる日本の夏の一日を家族みんなで楽しんでください。



『ないたあかに』(講談社)
作 灰田廣介 絵 野村たけみ
人間の仲間になりたいあかおに。それを知ったともだちのあかおにには……。友情や相手を思っで行動することを考えさせられます。



『お七の真夏日』川端 誠 (BL出版)
「あついなあ。今年の夏はなんでこうあついんだ」三つ目の大入道が(ば)やきます。暑い夏の日、お七け屋敷ではお七けたちがそれぞれ考えて涼しく過しています。

